

2022 10/25

No.2173

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



伊勢原市重要文化財の「大山火祭薪能」が、大山阿夫利神社の能楽殿で行われた。大山の自然を背景に、幻想的な舞台が観客を魅了した。



政経かながわ

2022 10/25 No.2173

contents

事務局だより

◇2022年11月定例講演会
11月24日(木) 午後1時30分～3時
メルヴェュー「ヴァランセ」(県民共済プラザビル6階)
講師：中央大学教授 岡嶋 裕史氏
演題：「メタバースとは何か」

◇2022年12月定例講演会
＝シンポジウム・交流会
12月9日(金)
ロイヤルホールヨコハマ
▽シンポジウム
午前11時～午後0時30分、3階「セレナーデの間」
パネリストは共同通信社の杉田雄心・政治部長、春木和弘・経済部長、有田司・外信部長。コーディネーターは神奈川新聞社の鈴木達也・論説主幹。
演題は「2023年の動向を読む」
▽交流会
午後0時40分～1時40分、3階「シンフォニーの間」
※新型コロナウイルスの感染拡大の状況によって中止する場合があります。

【事務局移転】 神奈川政経懇話会事務局は10月15日(土)、横浜メディア・ビジネスセンター12階に移転しました。電話番号やファクス番号、メールアドレスは変わりません。

【新規会員】
・永井・天野法律事務所(22年10月)

視点点描

本屋さんの新しいカタチ

3

講演録

「習近平政権3期目と東アジアの安全保障」
共同通信社外信部次長 芹田 晋一郎

4

デモクラシーの現場から

政権体力を奪われる岸田首相

8

経 済

世界経済の「暗雲」と日本の行方
ニューノーマルの段階に突入

10

経済双眼鏡

曖昧なリスキリング支援策

技術革新を生み出せるのか

13

神奈川景気データファイル

14

視点 点描



本屋さんの新しいカタチ

街から本屋が消えている—といわれて久しい。出版科学研究所の調査によると、1999年から2020年にかけて書店はほぼ半減し、県内でも「本屋のないまち」が目につく。人口減や活字離れに加え、雑誌を扱うコンビニの増加、電子書籍やネット販売が影響している。一方で、個性的な選書で差別化を図り、本を介した新しい場づくり

を模索する書店も台頭している。今夏、本紙文化面で文芸担当記者が連載した「まちを耕す本屋さん」（全8回）は、小規模ながらも旧来の流通システムに頼らず独自のアプローチで存在感を発揮する県内の独立系書店を紹介した。店主の個性を打ち出し厳選した新刊をブックカフェの一角に並べる茅ヶ崎の「こんぶトマト文庫」。

本を求める人との対話を重視した大船の「ポルベニールブックストア」。高齢者が多い団地に書店を取り戻すべく、国の補助金を活用して開設した横浜の「BOOK STAND若葉台」や、カフェと子ども図書館を併設した真鶴の「道草書店」など地域交流の一翼を担う店もある。

ローカルにこだわり三浦半島で出版社を営むアタシ社が三崎港近くに構える「本と屯^{たちろ}」は蔵書室と美容室を一体化した実にユニークな業態で、真鶴にも同様のコンセプトの店を開いた。

こうした独立系書店の流れと並行して、本を通してコミュニティづくりをする「シェア型本屋」の存在も増えている。横浜のオフィス街で、コワーキングスペースの一角に2021年にオープンした「LOCAL BOOK STORE k i t a .」は、

誰でも書店主になれる棚貸しのブックギャラリーだ。神奈川新聞本社に近いこともあり、わが文化部も今夏2カ月ほど1区画を拝借し、「文化亭」なる屋号をつけて部員お薦めの本を並べてチャリティ販売した。ここでは一日店長制度を導入していて、日替わりで登録オーナーが店番をする。筆者も番台を務めたが、ふらりと立ち寄った人とのたわいもない会話から知らない本の世界が開けていく高揚感を味わった。

本と人と地域をつなげようというこうした動きがじわじわと広がっている。秋の夜長を満たしてくれる本との出会いを求めて、新しいカタチの本屋を巡ってみるのも楽しい。人の個性と同じだけ、本屋が存在する時代が来るかも知れない。

（神奈川新聞社文化部長・

高田 久美子）